

2022年度 第2回 区民版子ども子育て会議

日時：2022年9月6日（火） 18時～21時

会場：三茶しゃれなあと オリオン

会場参加（61名）+オンライン(ZOOM)

～子育てば「今」をニーズ調査結果からどう読み解く？～

<子ども若者支援担当課 Sさんより資料説明>

*資料（リンク）

<30分グループワーク>

<グループ発表>

会場チームの意見

・特徴的だったのが、アンケートの回答にお父さんの育児に参加しているというのが増えている。回答したのは誰なんだろうという意見が出てました。やけに増えているのは、もしかしたらリモートでお父さんが家にいるので、お父さんが答えていたらやっぱり若干増えるのではないかな。これが実際にあれば幸せなことですが、実際はどうなんだったところが疑ってしまった。

・悩み事をパートナーや配偶者に相談できている割合が異常に多くて驚いた。

・子育てや家事を手伝ってくれている割合が少なかったり、緊急事態に誰もいないのが多いということが衝撃。

・相談できるところが1箇所だけになると不安が増大しやすいというデータがあった中で、地域の人とのつながりが希薄だよなってところで、どうしたら相談先を増やせるんだろうという話が出た。

・話題になったのが、地域の見守りが半減している。今、子育てをしている世代というのは普及してきたインターネットを利用してきているので、そもそも親が地域で育ってきた感覚がないのではないかな。そもそも地域の見守りということがわからないということが考えられるのではないかな。どの様に育ってきたかを考えてサービスを考える必要があるのではないかな。

・パートナーに相談する割合が高い様に見えるが、余計な人間関係を家庭に持ってしまうて実は悩んでいる時にそれがズレたら困るのではないかな、パートナーも困ってるのかなと。お互いに困りながらももしかしたら家庭の中で困り事が渦巻いているのではないかな。

・両親が子育てに関わっている率が高いが、楽しく子育てしているわけではなく、煮詰まりながらもしている人もいるかもしれない。0歳で割合が高いのであればピンポイントでそこには何か考えていく必要があるんじゃないか。

例えば0歳児の一時預かりをもう少しなんとかするだったり、サービス沢山で散らばっているのでわかりやすくアクセスできる様にすればストレスが減るのではないかという話が出ました。それだけ家庭で煮詰まって、データでも親子で楽しく過ごしたりだとか家庭重視が出てきている中で、地域の良さというのが選択肢が外れているというのがあるので、そういうのが出てくる何かがあるのいいのか。

・「出産直後に子育てや家事を手伝ってくれた人」の選択肢で「パートナー」とあり、手伝うパートナーってなんだろう。

・コロナの影響で地域のつながりや支え合いがダウンしている。世代の影響じゃないかという意見もあった。そもそも結構いろんな場があったり、児童館とか「ひろば」とか一生懸命やっているのに意外と使われてない・知られていない。

人や活動をつなげる役割を今度の計画で考える必要があるのではないか。

・女性が仕事を辞めなくなったというのは素晴らしいし、父親の参加度合いも増えているのは素晴らしいと思います。一方で時間的な余裕がなくなっているというのはいろんなデータから見えてくるのでそれに対応するサービスっていうのを考えなきゃいけない。

・保育園の待機児童が減って、これからは質を考えなきゃいけない。親が求めているものとして子どもの自立とか子どもの意思を大切に作る、いわゆる質的な向上というのも考える時期が来たのかなと。

・世田谷区が子育てしやすいと思う様になったというのは凄いことだなと思って、なんだかんだ言ってるけど世田谷区頑張ると。ただ子育てしやすいと思う人が増えているのに子どもが減っているのはなぜだろうというのは少し説明が必要だと思いました。

・ただしゃべる場がなくなってしまったんじゃないか。相談しましょう、来てくださいというのはハードルが高くて、なんかしゃべっているうちに「実はさ」という話をする場、する人がなくなったのではないか。

・将来の子ども子育て支援への関わりが、関わりたくないとあってちょっと寂しい。

・子育ての心配相談事の悩み相談先、やはり出会う場が減って交流の機会がないというのと、交流したいけど交流しにくくなってしまふ・話しかけづらい、「ちょっと赤ちゃん抱っこしてましようか」が言いづらい感じ。

・出産後仕事を辞めないといけないは社会的にどうなんだ、平等とかあるよねという話。

・児童館や図書館のニーズが減っている。

・区報を見ていない、半減しているということ。結構いい情報も載っているので、QRコードをつけたらいいんじゃないかとか。

・なんで地域の見守りがあった方がいいのかわからないという、スパイラルに入っているのでアクションをしていかないとどんどん人が減っていくだろうなど。

・子育てを楽しく感じるかっていうところの妊娠中や出産直後の精神的な安定感という話から出た話ですが、私自身「おでかけひろば」のスタッフをしているので、地域とのつながりをもっと必要なのではないかという話が出ました。

私もひろばに在中で赤ちゃんと来ている方に、妊娠している時ってひろばとか知っていましたか？とかこなかった理由は何とかリサーチしていますが、知らない人も多かったり紹介された気がするけどまだ妊娠の初期すぎて産休に入らないと行かれないから、もうちょっといいタイミングでリマインドしてくれれば行ったかもしれないとか、知らされてもきちんとインプットされてない方が多かったです。

赤ちゃん訪問で紹介されてきましたという方も結構多いんですが、もう少し妊娠期から産後直後に母子保健分野と上手く繋がれる方法

<があったらいいなと思います。

<オンラインチームの意見>

・数字で見ると意外と子育てしやすいよねとあった。他の自治体目黒と世田谷に関わってる方のお話を聞くと世田谷区は制度とかメニューとかかなり充実しているねっていう話が出た。

・他の自治体と比べると世田谷の良さが見えてくるだろうなって話もあったが、世田谷にずっといる方からすると世田谷って子育てしづらいよね、って感じている人もいるという声が沢山あるという話を聞いた。

例えば場所によってはプレーパークだったりひろばや児童館が遠かったり、思いっきり遊べる場所が少なかったりすると、世田谷区ならではの良さっていうのがそんなにないのでは、と感じる方々もいる声もある。

・地域とのつながりが減っているよねってところで、そもそも地域の人と関わりたくないよねという人も増えているのではという話もあったけど、実感をそもそも持ったことない人がいるのであればこのアンケートの設問自体が、本当の意味で子育てがしやすいかどうか地域とのつながりが必要かどうかわかりづらいのかもという話があったり。

・広報の部分。アナログが減ってSNSが増えている。ちょっと見て面白かったのが、保育園での情報が平成も令和も変わってなくて22%と21%ぐらいでした。大体生での声だったり普段から関わっているところの声というのはそんなに変わりはないんだなという話も出た。

・みなさん子どもに関わっているところで、沢山コロナ禍で変化を感じてらっしゃる団体の方ばかりでした。おでかけひろばさんと参加者が限られてきてしまったりとか、どうしたらお友達ができるんでしょうかというご質問があったりとか。

参加者が多かった一方で学校とか園でイベントが少ないところでは乳幼児のお父さんお母さんたちがとても参加される現象があったり。でもそんな中で不安を抱えている親御さんが多いのでは、と話されてた。

・助産師さんのところではリアルで繋がれる方もいるけれど、繋がれない方もいるというところ。お子さんをあやすのに音楽をスマホで流したり情報を得るのが上手な人もいるけれど、メディアに振り回されてしまうという親御さんもいるのではないかな。

・リモートで在宅でいる方が、スペースが少なくて赤ちゃんがハイハイできずにいきなり立ちちゃうって姿があるという話を聞いて、園長先生も0歳のクラスでいきなり立ってしまうという子もいて。でもお母さんは歩ける様になったんですよねって喜びを感じてる。

・コロナ禍で保育園も子育て期間の方達もいろんなことが変わってきたというのは、データを見させていただいたことで、ちょっとずつ感じていたことが見えてきた部分があるなっていうところをみなさんで実感したところ。

・現場の方が多かったなのでその方達の声として、コロナで人と合わない人が増えているというのは実際に感じたとのことでした。

・在宅の人をどうするかという話も出て、出てこられない人、家にずっといる人のことを心配している。

・遊びというものがわからなくて、遊びってどうやるんですかと質問される方もいた。

・資料の中で親子のイベントがあったら行きたいことがアンケートでわかったのを参考にさせていただきたい。

・今年メッセができてよかった。

・他の研究会の先生から、今年度入ってきたお子さん達は遊ぶということは自分がするものではなく見るものであるというふうに思っていて、最初遊べないっていう子どもが多くて、それに対する対応を考えていきたい。

<休憩>

■子ども若者支援担当課 Sさん

最初のグループで回答者は誰なんだというお話があったかと思います。回答する人によって手伝いの相談相手が変わるのでは、ということだったので。

今ここにデータがあって、就学児と未就学児ともに回答者は母親が86%の方がお返事されているので就学児も85%、父親が回答しているのが12%。なのでお母さんがパートナー、手伝ってもらってる相談相手だという回答している。

私もこの調査票作っていてこの表現をすごく変えたかったというのが正直なところ。手伝いか？って、正直も子育てしてたので思いました。

ただ前回の比較とかもあって設問を変えちゃうと比較ができなくなったりというのもあって、そこは悩みながら意見をもらいながら修正したので、次は手伝うっていう表現を使わないで調査をできるといいなと思いました。結構引っかかるところはあるので、こんな形でいろんな方から意見をいただくというのはありがたくって、これだと通じるの？というのも子ども子育て会議で頂いたので。

<松田>

本当の子ども子育て会議では調査票を見て意見するところからやるんですよね。世田谷区ではそういうところガンガン言い合ったりとかする事ができて。でもこんなに入れられませんとか言われながらグイグイみんなが聞きたいこと聞いていくっていうのが特徴的で、次回は5年後。

第3期というふうになっちゃうので、そろそろだなという時にウォッチして意見言ったりしないと。もし自分が言う立場になかったら、委員会の名簿を見てその人に言うという感じですよ世田谷は。

<子ども若者支援担当課課長より資料説明>

*資料（リンク可能？）

<松田>

ありがとうございます。色々新しいことが入っていることに皆様気が付いたでしょうか。ゆくゆくはこれは読めるようになるし、今日はお配りできなかったけどゆくゆくは。でも今日聞いたらさっきのデータで話し合ったこととかちょっと立体的になると思うので、ここからは、じゃあこんな事できたらいいんじゃないっていうのを妄想でいいので、それぞれ3つ考えるっていう。オンラインも引き続きグループで今の話と先程のいろいろをまとめてください。

<2回目のグループワーク>

<オンラインチームの意見>

・妊娠前からの切れ目のない支援の部分はというふうにしていったらいいのか。
妊娠前から妊娠中の教育についてはやれるといいのではないかな。

・助産師さんからの意見としては、妊婦さんの集客がなかなか難しい。
出産してからだとこんなことになるから大変だよ、という情報をお話できる場がもっとあればいいのではないかな。企業の方々とタイアップしてマタニティペイントだったりランチ付きのイベントだったり、そういった学びの場というものを抱き合わせにやれるのがいいんじゃないかな。

・マイ保育園をやるためには何が課題なんですかみたいな話を聞いたら、管轄などで難しいと。マイ保育園ができたらいいなという話が出た。

・出てこない人をどうするかと言うのが課題。

・出てこない人に合わせる場作り、メタバース空間を作るか。

・わざわざではないいつも行く場所、スーパーなどの場所へのアウトリーチをもっとやったらいいんじゃないかな。

・子育て利用券をもっとうまく利用できるような方法がないかな

・妊娠する前からの教育。（赤ちゃんを通しての性教育）

赤ちゃんからの性教育が大事じゃないかな。親が大切なところを洗ってあげて沐浴指導という形で、先程グランドビジョンの中で保育園のところでも出てたが、そういったところが役割として入ってくるかなと感じた。

・妊娠したときのヤングケアラーの方たちとか妊娠したときの SOS を、今は電話相談ではなくて LINE や Twitter など相手を使いやすいツールなどで、送ってきたタイミングで長文だったら長文で答えてあげるとか短かったら短いので答えてあげるとか、切れ目のない支援をやっていけたらなという話が出た。

・色々な子育てに係る施設なので、レインボーシールとかあるのをはじめて聞き、色々なところで見守っているよ、少数（マイノリティ）の方たちでもそこで育つ子どもたちもいるねってことで、みんなで見ていけるような繋がりを各施設で持っていったらいいねという話が出た。

<会場チームの意見>

・子ども子育て会議に子どもの意見を。子ども委員。

・開かれた社会的養護、教育。日常の身近のこととして。

・仕事を早く切り上げられる環境、集える場。

子ども子育て会議区民版を16時位からやって、遅いと飲み行けないメンバーも飲みに行けるような環境で、そこでアウトプットインプットができると良い。

・ SNS の活用ができれば良い。出てこない人にアウトリーチしていく一つの方法として SNS の活用

・ 今やっている赤ちゃん訪問事業に、地域の支援者や子育てひろばのスタッフなどが同行できるように。

・ 行政の相談のハードルが高いのが世田谷区の特徴なので、相談を拾う人を行政のスタッフ以外で作っていくのがいいのではないかな。

- ・ 子育て世帯の家賃を無料にする。
- ・ 子どもに議会を作る。子どもに意見表明を。

・ 教育委員会（学校との連携）

・ 在宅0歳の一時的保育預かり

・ 魅力ある学童保育

・ 男性も育児に関われるように。子育てひろばの土日を活用して男性に支援をしたらどうか。

・ 0才児の保護者が出かけられる機会を増やしてゆくの大事。

・ 情報が非常に多くて、たくさん持っている人がいる反面全く情報を持っていない孤立しやすい保護者にどう届けるか。子育て応援アプリをブラッシュアップして、検索したものが上位に出てくるような形にして情報がわかりやすく届くようにする。児童館やおでかけ広場などでかけやすいところでイベントを増やす。出かけるきっかけのなかった人の出かける機会を増やすというのは、子ども子育て会議区民版のこういう場など、支援者側がつながる機会を増やしていくことで行政や団体から民間企業も含め、住民や施設といったもっと多様な人たちが関わっていくことができるのではないかな。

・ 病気とか障害がある子どものためのひろばがあると良い。

・ 時間がない子育て家庭への支援。特に産後直後の訪問支援だとか子どもの一時預かりなどちゃんと全員に保証する。

・ 子どもがそこにいることに意義があるという子ども版の広場や居場所、物理的な空間だけでなくITなどを利用した空間でも良い。プログラム化されていない子どもの居場所というのが大事。主体性や多様性を考える。

・ 子どもが多くの人に見守られ地域ですくすく育つ仕掛けをたくさん作りたい。

- ・おでかけひろばが年齢を問わずいろいろな人が集える場所になると良い。
- ・子育て世代が利用できる地域の居場所が選べるほどにたくさんできると良い。
- ・多様性を受け入れられる仕組みがあると良い。それは選択肢がたくさんあるということ。実現するためにはやりたいという担い手が必要。やりたいという大人の方々が発言できたり繋がれたりする場が必要なのではないか。
- ・プレーカー拡充61個。おでかけひろばだったり児童館だったり、色々な子育て支援の事業が入っているものとしてプレーパークが大事になってくる。そのためにプレーカー拡充があれば良い。遊び場が小学校区全部に展開できれば61個。財源の話がクリアできたら。行政にやらせてもらっただけじゃなくて住民運営の良さも出てくるのでいきいきわくわくする街に繋がるのではないか。
- ・子どもの声を生活の中で聞く。皆さんが言っていた子ども議員に近いが、集めるのではなくみんなが暮らす中で普通の子達から子どもの声を聞くというのが大事になってくる。児童館や学校を活用しながらそういう事例を積み上げていくことがグランドビジョンに沿っていくのではないか。
- ・0歳のニーズに答える形で、LINEで子育て情報を届けやすくする。届くための仕掛けとしてはじめてキットの中にQRコードを入れて読み込むと友達登録ができて、情報が入ってきたりアクセスしたりする。今も子育て応援アプリがあるが世田谷区のWEBサイト限定だったりするので、そこをDXで突破しつつ。公式キャラは頼ってなんぼちゃんとスタンプ。

(松田)

時間が過ぎてしまいましたが、今日も無事に皆さんのいろんな話ができました。ここは決める場所ではないので、またこれを繰り返ししていきたいと思っています。

今日は私達フードパントリーのサンタさんが来てくれているので、副区長になったらしいので、サンタさんに最後にコメントをお願いします。

(副区長)

DXのアイデアを色々頂きましてありがとうございます。みなさんおつかれさまでした。僕の目標はチームワークあふれる世田谷を作るということで、官民一緒のチームになるのが夢なんです。今日そんな場が見れたような気がして嬉しくて、今日は美味しく飲んで帰ります。以上です。